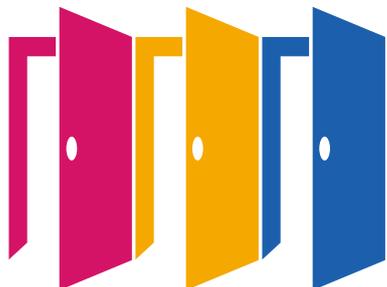


Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度国際ロータリーテーマ

2020～2021年度クラブ目標

『35年目の再構築 ロータリーの源流へ』

会長 吉野敬之
幹事 堀田一彦

創立 1986年



第1665回例会

令和3年4月22日 (18:30～19:30)

○ソング

- 奉仕の理想

○ビジター

- 白河市長 鈴木和夫様

○スマイルBOX

- 吉野敬之会長（鈴木市長様、御多忙の中御講話を頂きまして誠に有難うございました。コロナ対策を始め、お忙しい日々が続くでしょうが、お体に注意されて今後も市政の為に御尽力下さい。）
- 堀田一彦幹事（白河市長鈴木和夫様、卓話ありがとうございました。）
- 佐川京子会員（鈴木市長、今日は識見の広い興味深い卓話をありがとうございました。市長これからも白河の盤石な発展のためご尽力ください。お世話になります。）
- 齋藤孝弘会員（記念コンペ、天気もよく無事終了しました。ご協力・ご協賛いただきましたみな様もありがとうございました。）
- 成井正之会員（鈴木和夫市長様卓話ありがとうございました。先日のゴルフコンペで優勝したのでスマイルします。）
- 仁平喜代治会員（鈴木市長様、公務多忙の中卓話ありがとうございました。）
- 関谷亮一会員（白河市長鈴木和夫様講話ありがとうございました。去る2月13日に起きた地震で被害に合わせた会員に対し会員の皆様からの見舞金をいただきありがとうございました。感謝致します。）
- 永野文雄会員（ゲスト白河市長鈴木和夫様、卓話ありがとうございました。）
- 金田昇会員（白河市長鈴木和夫様ご来訪・卓話ありがとうございました。）
- 居川孝男会員（鈴木白河市長様、公務多忙の中、35周年記念式典、そして本日の例会とご出席賜りありがとうございました。今後とも御指導宜しくお願い申し上げます。）
- 鈴木孝幸会員（鈴木市長、本日は卓話ありがとうございました。コロナ禍の今、今後の展望についてポジティブなお話を頂き、非常に勇気付けられました。）

▶第1665回例会出席状況 (R3年4月22日)

| | |
|------------------------------------|--------|
| Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数 | 49名 |
| Ⓑ 出席免除の適用正会員数 | 14名 |
| Ⓓ 全正会員数 | 63名 |
| Ⓒ ①の出席者数 | 28名 |
| Ⓔ ①のメイクアップ者数 | 16名 |
| Ⓕ ②の出席者数 | 11名 |
| Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数) | 55名 |
| Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧) | 60 |
| Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率) | 91.67% |

▶例会日：第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局：〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間



吉野敬之会長

皆様、こんばんは。本日もお忙しい中、例会に多数出席いただきましてありがとうございます。今日は、鈴木市長のゲスト卓話ということで、いつもよりもやはり多めにメンバーが出席するように思いますが、先にお客様をご紹介させていただきたいと思っております。もう皆さんご存じだと思いますが、白河市長の鈴木和夫様でございます。拍手をどうぞ。鈴木市長におかれましては、公務が大変お忙しい中先日の35周年式典の際にもご祝辞を賜りまして、また今日コロナのワクチン接種が始まり、いろいろとご多忙の中、お時間を割いていただきまして今日お越しただけただけということで併せまして再度心から御礼申し上げます。ありがとうございます。先程話しましたように、今コロナの中でいろいろなことが手探りの状態で進んでいくそんな中でワクチン接種が始まって、その手法であったり手順であったり、そういうものを構築していくのは本当に大変な作業なんだろうな。でも、それに期待をしている方達も非常に多いだろうな、そんなことを思いますと今のご公務の中身がやはり興味もございまして、どのような形でこの中、市政を運営されていくのか非常に私達にとっても興味のある状態で、今日お話がお伺いできるということで非常にメンバー一同楽しみにしておりますので、後程卓話のほうをよろしく願いいたします。そして、こちらのホワイトボードのほうに掲示されておりますが、去年ゲスト卓話で来ていただきました石川格子さんがこの度入会という運びになりました。ちょっと今日は所用によりまして出席ができませんが、この後所定の手続きを経まして順調に会員となれば、ついに6名増の64名という会員になるわけでございます。これは会員増強の山田委員長はじめ、会員皆様全員のお力のおかげだなと思ひまして、心より感謝申し上げます。特に巷では人買いと呼ばれているそうでございまして、居川先生のご尽力によりまして非常に多数の新人をゲットできてということでございまして、まだまだあと2か月ございまして人買いの力、十分に発揮していただいとということで。県の地区のほうの増強目標というのがございまして、50名以上のクラブの増強目標は当初8名というふうに設定されております。8名と聞いた時に、わたくしの年度目標当初4名でございましたので、いやちょっと8名はさすがに大体130パーセント増ということになりますので、それはさすがにという思いもありましたし、単純に8名を増やすということの意味はないのではないかなと。やはり、増強の強ですね。人としてクラブの力となるような人材を発掘していく、そういう事が必要なので人数を増やすということだけが目的ではないというふうなことは思っておりますが、皆様のご協力のもと6名まで増えてきますと、この8名があと2名だということになってき

ますと、若干色気も出てまいりまして。更に先日、式典の際に金田昇次年度分区ガバナー補佐が石黒ガバナーのほうに何を思いましたか、あと3名増やしますからと約束をしていただきまして嬉しい限りでございます。そういう次年度の分区ガバナー補佐エレクトの意気込みを感じながら、せっかくでしたら何とかあと2名増やすように努力はしようと。結果がそれに追いつくかは別として、やはりそれだけの仲間が増えるということは私達にとっても喜ばしいことですし、その人数だからこそ、それぐらいのクラブだからこそ出来る事ということが当然出てくると思ひますし、その責任も出てくると思ひます。そういったものを傍受するためにも、また頑張っていくなと思ひている次第でございます。今日は、市長のお話が聞けるということですので、会長の時間はこの辺で終わらせていただきたいと思います。ありがとうございます。

■幹事報告

堀田一彦幹事

- 福島民報：福島民報広告紙について（4月4日）
- 福島民報：福島民報広告紙について（4月10日）
- 白河市交通安全対策協議会 会長 鈴木和夫：白河市交通安全鼓笛パレードについて（通知）
- (株)生駒時計店：CATALOGUE 2021-2022
- 国際ロータリー第2530地区 ガバナー 石黒秀司、会員増強・拡大・ロータリー情報委員会 委員長 比佐臣一：会員増強についてのミーティング開催について
- 国際ロータリー第2530地区 ガバナー 石黒秀司、ガバナーエレクト志賀利彦：2021-22年度地区賦課金額・地区資金予算案の承認に関するクラブ投票について
- 公財)ロータリー米山記念奨学会 理事長 齋藤直美、事務局 長 柚木裕子：感謝状（礼状）及び法人申告用領収証送付の件
- 国際ロータリー第2530地区 ガバナー 石黒秀司、米山記念奨学会委員会 委員長 阿部光司：米山記念奨学会米山記念奨学生歓迎オリエンテーション開催のご案内
- 白河ユネスコ協会 会長 小野利廣：白河ユネスコ協会総会の書面開催について

■委員会報告

○関谷亮一会員



皆さん、こんばんは。本日、白河市長、鈴木和夫様に我々のこの例会に講話をいただく。本当にありがとうございます。私のほうからは、先週と先々週、2週に渡って2月13日に起きた地震の被害を受けられた会員の皆様への募金を実施しましたところ、皆さん大変快く募金をしていただきまして本当にありがとうございました。多額の浄財をいただきましたことに対して、心から厚く御礼を申し上げます。会長のほうから当事者の3人の皆さんにお渡しいただけるものと、そんなふう感じております。よろしくお願

■本日のプログラム

白河市長卓話

○白河市長



鈴木和夫様

皆さん、こんばんは。先程、白河西ロータリークラブの会員の益々の増強をいたしまして、吉野会長からも人さらいではないのかという話があるくらい、他のロータリークラブに比してだと思いますけど、非常に威勢ますます多にしてということで、本当に祝福を申し上げたいと思いますし、ずらずらずらっという若い方々の顔ぶれも多いですね。JC出身の方が沢山おられるようであります、別名そういう名前なんですか。冗談ですけど。結構なことだと思います。ますます会員増強されて、金田昇さんも3人ぐらい集められるということだそうなので、どんどん集められて70人を超すくらいの勢いで是非とも頑張っていたきたいと思います。今日は、最近コロナでこういう機会がなくて市政懇談会などもできない状態なので、こういう講話とか何ごとかをお知らせをする機会がぐっと減ってしまって、非常に残念に思っております。むしろ、そっちのほうがストレスに感じられます。今日は喜んで参じたところであります。若干の資料は持ってきましたが、これにとられることなく今日はコロナ、先程もワクチン接種の話がございましたが、今ご関心の多くはこのワクチン接種がどういう状況に今あるのか。そして今後どうなる見込みなのかといろんなこと大変ご関心だろうと思いますので、その辺とそれからこれはウィズコロナであります、と同時にこの資料にも書いてありますがいわゆるアフターコロナということも十分に考えていく必要があると思います。むしろ、私はアフターコロナを視野に入れながら物事を考えていくべき時期とあるというふうに思っておりますので、ウィズコロナとアフターコロナと入り混じった話になろうかと思いますが、その辺についてお話をしたいと思っております。今、コロナで我々大変な難局にあるわけですが、これをよく冷静に考えてみるほうがいいと思っております。我々、皆さん言わずもがなな事ですけど、人類の歴史は疫病との戦いの歴史。戦いというのは変ですね。疫病のほうがウイルスのほうが人類より先に住んでたので、本当は戦いじゃないんですね。ウイルスとの向かい合い方と言ったほうがいいでしょうかね。ウイルスとの向き合い方の歴史でもあったというふうに言っても過言でないと思っております。かつてのペスト、黒死病ですね。天然痘、コレラ、こういったものはもう何百万単位で亡くなっているわけですね。戦争で亡くなる人よりも、この疫病で亡くなる人の数のほうが実は多いようですね。戦争はしょっちゅうあるのでさほど感じませんが、数からいえば疫病が一旦起きると何千万単位で亡くなるということ。黒死病なんていうのは、もともとモンゴルのチンギス・ハーンの子孫の人達が、ヨーロッパを征服した折に持って行った病気が蔓延していったわけですね。その結果、ヨーロッパの当時の三分の一以上の人々が亡くなったとこう言われておられて、その時にいくらキリスト教を信仰したってな

んにもならないだろうということから宗教革命が起きていく発端にもなっていく。あるいは、中世社会はやはりキリスト教が当時力を持っていたのがどうもおかしいのではないのかということから、人間復興運動というのが起きてきたということで、今のイタリアからそんな運動が起きてきたということを考えると、大きな疫病の時は大転換が起きるとというのが大体通例。今回そうなるかどうかはわかりませんが、これまでの歴史を振り返ると大体大きな疫病の時には、大きな歴史的な転換が起きてきたということでありまして。それを考えると、これは私ももちろん市のトップとしていかに早くワクチンを打つかということに全力を挙げておりますが、同時に我々のこれまでのやり方というものを考えるべきじゃないかということは、実は職員の方々にも月曜日の部長会議でも申しあげておりますが、あるいはいろんな新聞でも、また評論家もいろんな方が申しあげておりますが、我々のやってきた社会の作り方にどこか問題があったのではないかとこのことを迫っているというふうに言われておりますよね。いわゆる資本主義が暴発してるんじゃないのかと。渋沢栄一先生が何故あれほど人気があるかということ、やっぱり渋沢栄一さんとか二宮尊徳もそうですけど、あるいは「国富論」のアダム・スミスもそうですけど、言ってることは同じことなんですね。金儲け、大いに結構だと。しかし、そこに自ずから歯止めをかけるべきだと。ということも言ってるに過ぎないんですね。資本主義はあるいは利益をあげるという欲望がなければ発展はしません。しかし、欲望には限りがあるし、資本主義時代の持つてくる性格には弱肉強食になる性格を持つてると。だから、そこに国家が介入して社会福祉制度を作ったとということですね。賢明なイギリス、ドイツ帝国を統一したビスマルクは鉄血宰相といってますよね。国を象徴するものは鉄と軍隊だと言っています。そのビスマルクが一番最初に目を付けたのが社会保障制度の充実でしたね。戦う兵隊が元気がなければ戦争に勝てない。働く者が元気がなければ政策は回らない。だから、社会保障制度を導入しよう。不思議な話ですね。一番帝国主義的な人が、最も早く社会保障制度を導入したと。というのは、働く人が弱っていけば働かなければものを作れない。ものを作れなければ戦えない。簡単な論理なんですけど、これがなかなか実はできない。でありますので、こういうことを考えた時に我々はちょっとソビエト連邦が崩壊して平成の始めに、もう資本主義は社会主義に勝った。もう社会主義は通用しないなんていうことが



世界の常識になってきて、もう資本主義は最高のシステムであるというふうに言われてきましたけど、それがあまりにもいわゆる新自由主義と言われていた方が官官民営、どんどん今、官僚が持っている権限を民間に開放するべきだと。どんどん政府は小さいほうがいい。民間が強ければいいと。そういう流れがずっと続いてきましたよね。日本でいう小泉内閣、小泉純一郎さんが悪いわけじゃないですけど、その旗振りをした竹中平蔵さん、あの人も新自由主義の権現ですよ。あの方々が丁度思い出してもらえればわかると思いますけども、今、非正規雇用とか、就職氷河期とか言われている言葉、その旗振り役をやったのがこの方々です。決して悪いわけではないんですよ。ただ、そのつけが今回ってきているということだし、どんどん多少制限を加えないとやっぱり資本主義というのは強欲なものだと。要するに、利益が利益を生むということで、放っておけばどんどん貧富の差が広がっていくと。どんどんどこにでも開発を進めると。アマゾンの密林を切り開き。アフリカの大地を切り開くということになれば、当然そこには動物がいるわけで、みんな動物はウイルスを持ってるわけですよ。ですから、人間にうつるのは当たり前なことです。それはもうどうの昔に疫病学者がそれを指摘しているわけですよ。ですから、各々両方が守るべきだと。人間は人間の領域から出ないようにしましょうと。動物の領域を守りましょうということは、今に始まった事じゃないわけですね。それを我々が開発だ開発だといって、すべて開発しつづけてるわけじゃありませんけど、アマゾンのあの大変なCO2を吸収する密林まで伐採しようとしてるということに対する警鐘ではないのかと。こういう論理が今、社会的風潮が切り替わってきたんですね。20年あるいは15年、10年前の風潮と完全に変わってきました。一時、会社は誰のものだと言うと株主のものだと当たり前と言われてきました。それが今は違うんですよ。従業員である。社員のものであり、株主のものであり、そして取引業者のものだと。こういうふうになり替わってきました。これが当たりのことであつたのですが、いつの間にか株主のものだという議論に置き換わってきた。ですから、ある一時期いわゆるアメリカの新自由主義者と言われていた方々が一時世界の資本主義をぶんどってしまったと。こういう表現をする方がいますが、その考え方が今、自然に時計の振り子のようにまた元に戻りつつあると。だから、渋沢栄一であり、あるいはアダム・スミスであるということなんだろうと思います。ということで、我々の国づくり、地域づくり、あるいは会社の運営もそうだと思いますが、そういうことを冷静に振り返ってみる時期に今さしかかっていると。多分、そこに新しい未来、希望がそこにあるだろうと。私はそう思っております。決してこのコロナは悲観する必要はないと思います。コロナの後に来るであろう未来をどう作っていくかということを実際に考えた国が、おそらく世界を引っ張っていくであろうというふうに思います。今、言われているのはもう大体口を開けばSDGsと、グローバルゼロのカーボンゼロだとグリーン成長戦略と、これ当然のことを言っ

てますよね。どうしてかということ、地球温暖化というのが非常に人類に災いを招いているからですね。これははっきりしてますよ。前のアメリカの大統領は否定してましたが、そんなことは普通はあり得ないので、地球温暖化が地球全体の危機であるということの、もう了解事項に達したからこそ、全世界がカーボンゼロだと、グリーン化経済を目指しているということですよ。あるいは、サプライチェーンもそうですね。我々が反省すべきことは安ければ何でもいい、だから中国に行ったほうがいい。これもそうですね。安い労働力と安い土地で作ったほうが安い物ができるから。みんな中国へ中国へ行った。世界の工場になった。しかし、いつの間にか気が付いたら大事なものは皆中国で作られている。こういうコロナの時に気が付いたら、マスクさえ入ってこなかったということがあったでしょう。我々は忘れやすいのですが、去年の4月はどうでした。マスクがないというので大パニックだったでしょう。中国がもし、もっと数を占めればもうパンクしましたよね、日本がある意味。それぐらい首根っこを掴まれているということですよ。サプライチェーンの中国依存によって。だから、やり方も安ければいい、それはもちろん競争ですから安く作った方がいいに決まっていますけど、しかしそれで安ければいいのかということの問題を突きつけているんじゃないでしょうか。そういう意味で、中国依存体質が安ければいい安ければいいと言ってみんな中国に工場を持たない会社はないくらい、ほとんどの会社は中国に工場を持っていますよね。それは決して間違っていないと思います。ただ、こういうふうになると中国に全部の工場が集まってくると、世界の工場の中国が力を持つというのは当たり前ですよ。危なくなった中国との貿易がストップしたら、相当のダメージです。ですから、これもまたサプライチェーンを一國に集中させる。安ければいいという考え方がいいのかどうかということも、私は経済人ではありませんけども皆さん方は経済人が多いので、もちろん競争に勝ち残らなければならない。しかし、その一方その結果、個々の企業としてはいいが部分的にはいいが、総体としてどうなのか。部分最適全体不適という言葉がありますが、部分最適ですね。個々の企業については。しかし、全体としてみればどうでしょうか。非常にマイナスの面が多いんじゃないでしょうかということを実際に我々は国家安全保障の面からも考えるべきだということに思います。単なる、軍事力だけでなく経済力、農業生産、農業自給率、サプライチェーンの在り方、これ含めて安全保障の問題ではないでしょうか。私はそういうふうに思います。ですから、今言ったアフターコロナを考える時に、これまでの我々が作ってきた、あるいは運営してきた社会の構図を。企業の統治の構図を、あるいは国と地方の在り方。こういったものを根本からとは言いませんが、相当ひっくり返さないと日本という国が引き続き世界に影響力の持てる、そしてまたそれ以上に日本国民に希望を与える国ができるのかどうかということを実は問われていると思います。それぐらい、このコロナという問題は今まで

の在り方、この20年、あるいはソビエト連邦が崩壊して32年、そこから以降の在り方について考える必要があるというふうには思っております。私は地方行政の専門でやってきましたから、行政の在り方を50年近く見てきましたので、行政の変遷を見てきましたので、国という機関と地方というものの関係、国と地方の関係をずっとこの50年近く見てまいりましたので、その変遷を考えるにつけ、やはり我々地方こそがこれからの主役になっていくであろうと、私はそう思っております。また、ならざるを得ないと思っています。ということで、アフターコロナで今いろんな問題がありますが、特に我々考えるべきはこの前も那須塩原市長さんがわざわざお見えになりました。渡辺美智雄代議士の孫ですね。一時、大変なブームを起こした渡辺喜美さんお兄さんの弟さんの子供なんですね。参議院議員やって参議院議員から那須塩原の市長になったんです、何故か。那須塩原の市長さん急死しちゃったので、やっぱりがんで亡くなっちゃったんですね。それがあって急遽、参議院議員の任期もちょうど終わる頃だったんですが、あの参議院議員から市長に回ってきたんですよ。そして、その時私と一杯飲んだ時にどうだと言ったら「いや、面白いですね。参議院議員なんかもうイエスマンでしたから。上に立てと言われれば、はいつて立ってればいいんです。」って。要するに、何の判断もする必要がなくて自民党の幹事長からこの法案に対しては賛成するんだぞと、お前立ってればいいんだと、簡単にいえばですよ、こういう話でしたけど、はるかに給料も何も全く参議院議員のほうがはるかに良いわけですよ。新幹線はグリーンパスだし、給料は彼はなんで市長の給料はこんなに安いんだと俺に聞いたから、俺に言われてもわかんねえよって。私はこれ以上貰ったのについて、これ以上貰って秘書を3人も抱えてたのについて、市長ってなんでこんなに安いのかっていうから、それは自分で選んだ道だから仕方がないって言いました。しかし、生き生きとしていました。何故、生き生きしたのかというところとやっぱり自分で決められるからですね。物事を自分で決められるから。こういうことを言いました。その来た理由は、実は私は那須と那須塩原市と大田原市との関係を今、強めております。那須町の平山町長さん、あるいは前町長さん、関谷さんの義理の弟さんですが前の那須町長さん。ちょっと体調崩して引退されましたが、ずっと良好な関係を続けているのは別に隣接の町ですから当然ですが、私はこう思っているんですね。もともと県庁の時からそう思っていました、首都機能移転の問題ありましたよね、平成の始め。あれは一時、東の候補は那須中心に白河まで。一方、西は岐阜だったんですね。候補をしばったんです。しかしながら、綱引き合戦になっちゃったんです。綱引き合戦になっちゃって、どっちにも軍配を上げようがないと。特に関西から向こうの辺は、東京だって遠いのに、なんで福島くんだりまで行くんだと。熊襲の国まで何で行くんだと。悪い人はですよ。昔、サントリーの社長が熊襲って言いましたよね。皆さん、覚えてますか。悪気があって言ったわけではないんだけど、熊襲の国って言ったことがある。京都の

ほうからみれば、東京にだって正式には天皇陛下は移転しますとは言っていないですよ。遷都しますとは言っていないんですよ。東京に行ってきますと言っただけです。京都の人たちはいずれ帰ってくると、冗談がてら言っています。それぐらい京都から見たって東京は遠いのに、ましてや東京から更に150キロの所に首都機能を持っていく、とんでもない話だという議論が巻き起こっちゃって結局頓挫しちゃったんですけど。その時の資料がもう政府にびっちり持っていますから。地質調査ですね。岩盤の強さ。それから、交通網の東京からの距離。あるいは、いざあった時には太平洋まで何キロ、日本海まで何キロだ。どういう通路をどうこう行くと。全部データ持っております。そのデータはちゃんと国に保管してあります。ですから、私は前の那須塩原の市長の君島さんっていう市長さん。その前の市長さんが、白河出身の藤田さん。その時、黒磯市長でしたけど。黒磯市長の藤田キヨシさんという方は、道場町出身ですよ、確か。それから、道場町出身で東北大学の法学部に行って栃木県庁の土木部長をやって、渡辺美智雄さんのバックアップで黒磯の市長さんに当選したんです。ということもあって、非常に那須町の市長とのご縁もあるというのは、そういう首都機能の移転の候補地になっていることは、依然として何事かあった時には必ず出てきます。特にこのコロナ災害によって今、東京から人が、その資料にもありますけど東京一極集中が止まりつつありますよね。これが一過性のものなのか。あるいは、これからも続くのかがはっきりとは断言できません。しかし、間違いなく私はこのコロナの問題が収まったとしても、東京から分散していくことは、そのスピードはわかりませんよ。ゆっくりゆっくりだとは思いますが、間違いなく地方に分散していくと思います。今のところ大体、東京から50キロ圏です。今、大体神奈川、あるいは茨城、栃木の南部、埼玉北部。東京の八王子とか、青梅とかそういう所。青梅は少し交通が不便なので八王子あたりでしょうかね。その辺に今、東京から分散しています。何故、そこから出られないのかは、やっぱりまだテレワークとかサテライトオフィスということが盛んに言われておりますが、まだ頭の中は本社に通わなきゃならない。本社にずっと通ってたので、やっぱり本社というものに縛られているということがあって、より近い所ということでそこに留まっております、今のところ。ただ、これがテレワークが当たり前になってきて、サテライトオフィスがあちこちに出来始めると、本社のほうに月一ぺんくらいしか行かなくても済むと、あるいは週一ぺんで済むというふうになってくると、完全に流れは変わってくると思います。多分、今その流れがどうなるかという段階には私はあると見ております。コロナが収まったもおそらくこのサテライトオフィス、あるいはテレワークというのが本格化してくれば必ず動いてくると思います。でも、企業も大きいビルはもう必要なくなってきましたよね。電通ビルが素晴らしいビルをヒューリックという会社が三千億円で買いますよね。ヒューリックという会社の専務は私の高校の同級生、白河高校から早稲田の理

工学部に行って、棚倉の近津、古市信二君というんですけど、そのお兄さんは古市徹雄さんといって建築家です。棚倉の倉美館をつくった。あるいはこの辺でいうと、県の会津医療センターをつくったり、東京都庁舎も関わった。丹下健三さんの弟子でしたから。その人がお兄さんで、どっちとも早稲田の理工に行って、お兄さんは建築家、弟は土木で大成建設に行って、大成から引き抜かれてヒューリックの専務で、今ヒューリックの子会社の社長やっていますが、その会社も三千億円で電通ビルを買う。あるいは、アメリカの有名なブランドの会社のビルを買う。電通は三千億円ですよ。そういうビルを買っているんです。それも電通があんなに大きいビルに人を集める必要がないという判断で、あんなビルを持っていたらコストが大変だから、それを売り払ってもっと小規模なビルにするということ。多分、これはもっともっと流行っていくというふうに言われております。ですから、今ヒューリックは銀座のビルを買いまくっていますよ。後で見てください。小さい会社です、ヒューリックというのは。500人くらいしかいません。でも、事業規模はものすごいですから。おそらく、多分給料は日本で一番高いだろうと言われております。課長クラスで年収は二千万円だそうですから。私よりも多いです。課長クラスで、37~38歳で。今年求人8人のところに5000人の応募があったそうです。そういう会社が何故、あんな電通なんていうとんでもない巨大な会社があのビルを丸ごと売っちゃうのかということ、大きいビルがもう必要ないから。みんなが集まって仕事をするようなそういう所が必要ないから、もうテレワークとかなんかに移行すれば、必然と大きいビルは必要なくなる。大きいビルが必要なくなれば、メンテナンスもいらなくなる。コストが下がってくると。こういうことになりますよね。ですから、これはおそらく流れは止まらないだろうと思うんですね。そうすると、その人たちが本社に毎日通勤していくものだというふう固定に頭が縛られている方々が、そこからフリーになっていくというふうになってくると、そこからが地方分散が本格的に始まっていくと思います。那須塩原の市長はもう、那須塩原にも相当来てますよともう言っていますね。那須塩原にもそろそろ集まってきていますよと言っております。私はこの流れは変わらないと思っています。ただ、1年2年単位で急に増えるかどうか分からない。これはわかりません。ただ、5年10年単位でみたら、間違いなく地方分散は始まっていくと思っております。その時に、福島県の知事も副知事もこの前、先々週になりますかね。県庁に行ってご挨拶をしましたが、県の担当部長、これも総務省から出向しているキャリア官僚で優秀な部長であります。彼曰く、福島県で一番可能性があるのは白河だと。これ明言しております。一昨年になりますかね。白河で一杯やりました。その時にも、その時はまずコロナの問題まだ発生してませんが。コロナのこれが発生する前の段階においてですけど、二地域居住とか、地方分散が始まるとすれば、まず福島県では白河地域がまず一番ナンバーワンだと。どう考えてもこうだと。だから、県は力を入れますよと。

こういうふう言っていたところに、このコロナが出てきたので。タチバナというんですけど、タチバナ部長は県南の振興局長と今話をしている。今、県南地方にサテライトオフィス、テレワーク、そういったものを利用した。サテライトオフィスは全国で準備をしていますが、広くこの新白河周辺をサテライトパーク、サテライトオフィスタウン、こんなふうな名称で売ったらどうなんだろうかと、こんな話をしております。それだけ非常にやはり可能性があるということですね。そういった意味で、我々がじゃあ何をすべきかというのは今言ったような地方分散が始まるとすれば、我々は何を用意すればいいだろうか。その東京から移ってくるであろう東京圏から移ってくるであろう方々に、何を提供すればいいのだろうかということでもあります。それは、東京と同じレベルで比べたらこれは敵いっこありませんね。医療にしても、文化芸術にしても、スポーツ施設にしても。そういう水準で比べるのではなくて、総合力で比べていくんだらうねということですね。俗にいう、広い家、あるいは自然が豊かであるとか、ちょっと行くと温泉があったり、あるいは周りにゴルフ場があったりという、仕事とそういうレジャー、あるいは自分の趣味、趣向、そういったものが表裏一体になっているところという所を選ぶだろうということ。簡単にいえば、軽井沢に対抗するような地域をつくりましょうと。それは那須、白河で作ったらどうだろうか。白河だけでなく。那須、白河一帯で売っていくと。軽井沢といたら誰でも知ってますよね。しかし、実際軽井沢まで新幹線で約1時間くらいかかりますよ。1時間弱ですけど。そんな白河と変わらないんですね。ところが、軽井沢という名前が持っている圧倒的な知名度、これなんですね。私は大学の先輩にしょっちゅう軽井沢にゴルフに行っている先輩がおられたので、白河にもおいでくださいと言って、下宿が一緒だったので大変親しくしていただいておりますけど。その先輩がいつも軽井沢に行っていたゴルフ場をやめて白河に今度切り替えたなら、なんだお前の所はこんなに近かったのかって。私が朝一番に来てゴルフ出来ますよと言って。場合によっては日帰りもできるんですよと言ったら、そんなことあるわけないだろうと。じゃあ、地図を見てくださいよ、地図をとって地図を出したらここだって。ここお前のとこ、こんなに近かったのかって。こんなイメージなんですよ、東北というだけで。ですから、来てくださいよと言って「白河ゴルフ倶楽部」にご案内したら、いやこれは良いゴルフ場だねって言って。もうそれ以来、



毎年7年連続会いに来てますけど。友達を誘いながらね。だから、そのイメージなんです。軽井沢だったら、近くで素敵な街でゴルフ場も沢山あって。しかし、東北というだけで、遠い、寒い、なんか暗い、そんなイメージが、そこではっきり言いませんよ。多分、そういうイメージを持っているんですよ。福島県のと云うだけでも東北。福島県のと云うだけで、もう東北になっちゃう。白河って言う前に、東北のイメージが出来上がっちゃってるんですね。でも、地図を見てください。東北は東北ですけど、一番南部です。ちょっと行ったら那須、北関東ですよと言うと「そうなんだ。」と、それぐらいのイメージですよ。その立派な方なんです。一流大学の役員までやった、いわゆるエリートですよ。その人ですらかんないんです。軽井沢は知ってる。熱海は知ってる。けど、白河はそんなに近いのはわかんないですよ。みんなそう仰いますよ。三菱瓦斯化学を私誘致しましたよね。その時の担当さんが、河さんという専務さんがこの方立派な方です。この方がいなかったら実現しなかったと、私は思っていました。この方は白河に毎年来ています。家族で来られて、毎年ゴルフされています。この方は京都の出身です。京都御所のすぐ近く。つまり、京都のど真ん中のど真ん中です。京都の人達は、京都御所から近くないと京都人と言わないそうです。京都の駅前なんかは田舎だそうです。京都御所の周辺だけが京都なんです。ましてや、宇治なんていうのはど田舎だって。そういう意識が残っているんです、京都って。京都御所周辺の一部の地域だけが京都であって、それ以外は京都と言わないんだと言うそうです、昔の人は。だから、河さんのお母さんはそう言ってるそうです、今でも。今、90何歳でご健在ですが。だから、小さい頃になんとか何条から南には行くなと、いつも言っていたそうです。子供の頃に南三条かなんとか三条か、南座あたりですかね、京都の。あの辺から下の駅のほうに行ったら駄目だというふうに教えられたそうです。なんとなくその意識がずっと残っていて、あっちのほうに行くと魔物がいるんじゃないかみたいなことを思ったそうです。そうした人から見れば、東北なんていうのはもう本当に僻地の地ですよ。でも、大人になって三菱瓦斯化学の役員ですからそういう意識はありませんが、しかしやっぱり最初に三菱瓦斯化学が東京から200キロ圏内、できれば150キロ程度の圏内に20ヘクタール程度の土地を探しているという情報がいち早く入りました。私の知ってる銀行マンから。白河も可能性があるのじゃないかと彼が言ったので、佐藤雄平知事にすぐ電話をかけてすぐに行動に移しましょうと言って行動に移しました。実際に来てもらいました。それがまた、とっても風の強い日で12月の寒い頃で、よくよくこんな日に来てくれたものだなというぐらい那須から来る風が強くて強くて吹っ飛びそうな時に来てくれたんです。これはイメージ悪いだろうなと思ったんですよ、本当正直。でも、県の企業局の人達が頑張ってくれて草刈りを綺麗にして、でも風は止められないですからね。とんでもない寒い日で、その後食事しながらどうでしたと聞いたら、開口一番です

ね東京からこんなに近かったんですねとこう仰いました。風の強い弱いじゃなくて、開口一番、私こんなに近いと思わなかったですって。やっぱり、そんなものなんですよ。我々はこのにいるから東京から近いというふうなことは当たり前のように言ってますよね。でも、東京の人から見たら、そんな意識は毛頭ないんですね。白河を通り過ぎる人だって白河の駅なんて関心ないですから。仙台はもちろん関心ありますよね。大会社の支店がありますから。ほとんど通過点の人達はそんな意識は持ってないです。ただ、白河に工場を作ろうと思って来た人から、実際に足を運んでみたらこんなに近かったんですかということ仰るくらい実は近い所なんです。ですから、東北と関東で切り分ける必要は毛頭ありませんが、やっぱりその地域のイメージというのは残っているんですよ。いくらこれだけ情報化社会になったとしても。皆さん正確な知識を簡単に今得ることができる時代になったとしても、一旦植え付けられたイメージというのはなかなか覆らない。だから、風評が大変だということでもあるんですよ、裏を返すと。しかし、実際白河に行ってみたら、なんだこれ関東じゃないかと。ですから、いみじくも関東じゃないかという言葉に代表されていますよね。東北だと思っていたら、ほとんど関東だよって。というのは、関東ならば近くて、東北なら遠くて寒いというこの落差が実はあるんですよ。那須は関東ですよ。でも、ちょっとしたら白河は東北に切り分けられちゃうでしょ。でも、ほとんど一帯ですよこれ、那須白河というのは。生活圈も。生活物資はほとんど変わらないですよ。ほとんど那須町の生活圈というのは白河でしたよね。昔は開拓地、40年前50年前、中町の渡辺薫先生は若い頃、那須の開拓の農家まで夜往診に何回も行ったそうですから。それぐらい白河に近い地域は病院は白河、買い物も白河ですね。それぐらい近い関係にあるんですけど、地図で見るとあるいは日本でブロック帯に分けると関東と東北に分かれちゃうんですね。不思議とゴルフの料金も那須までは高いんですね。こっちに来ると急に安くなるんですよ。ほとんどゴルフの設備なんか全く変わらないのに、料金が那須だけで少し高くなる。白河に来ると安くなる。全然状況なんて変わってませんよ。でも、そんなものなことです。我々はこのイメージを変えていく必要があると。そのイメージをどう変えたらいいのかということ、実は今日もお笑いタレント2人来て、白河東で7か月生活をしてもらって、お試し居住をして、それをユーチューブで発信してもらおうということで、今日2人お見えになりました。即興の漫才やってみました。第2応接室で。「もぐら」という若手のコンビです。何か月、東に居住してそこからいろんな動画を発信してって、福島白河のPRをするということで、君たちは田植え知ってるかと言ったらわかりませんというから、じゃあ田植えしようじゃないかと。俺も田植えするから田植えしようと言ったら、じゃあそうしましよるかと言ったら決まっちゃったんです。私も田植えすることにしましたけど、そうやって発信していくということ。ああいう若い人たちが発信することによって、白河

という町はこういう町だと。こういう古くからの歴史もあって、里山もあって素晴らしい環境ですよということのPRになるので、それを白河の観光、地域を売っていくというための事業の一環として、その漫才の若手のグループに今お願いをしておりますが、そんなことをしてとにかく白河を売っていくということ。そして、地方分散の受け皿にしていくということのためには、先程何が必要かということを行いましたけど、いろんなもの全部必要です。医療の水準を上げていくこと。開業医の数を増やしていくこと。学校のレベルを更に上げていくこと。そして、当然産業のレベルも上げていくこと。人口は増えることはありませんからね。いくら地方分散といったって、何万人も来るわけじゃありませんから。ですから、人口増ということはずりありません。日本全体がシュリンクしていきますから。ただ、人口の減り方は減っていくだろうということです。そして、またそういう年齢構成はわかりませんが、そういう新しい人々が来ることによって、新しい風を起こしていきたくらうと私は思っております。ですから、教育、医療、産業、文化、スポーツ、すべて大事ですが、東京のような超一流のものを揃える必要はない。もし、必要なら東京に行けばいいわけですから、それを求める必要はない。ただそれ相応のものは揃えていく必要があるということだと思います。特に今のコロナの中では医療でしょうね。白河には厚生病院があるから実は助かっているんですよ。厚生病院があるから、厚生病院の患者さんが言いますよね。厚生病院というのは批判も強いんですよ。対応が悪いとか、看護婦さんの何とか何とか何とかあるんですけど、これ当地になかったらどうしますかって。我々が作るしかないんですよ、市立病院を、多分。市立病院持っている所って南相馬市とか、あるいは公立岩瀬病院という所ありますよね。南相馬市の病院なんていうのは、やっぱり大変ですよ。一般会計から赤字、病院ってなかなか儲からないんですよ、実際は。コストはかかっていますけど。だから今、大変でしょう。受診控えで病院行かないでしょう。でも、かかるものはかかるんですよ。建物はちゃんとあるんだし、看護婦さんに給料出さなくちゃならないし、民間でいえば装置産業ですよ。一定の経費は必ず掛かるわけですよ。しかし、受診者はぐっと減ってきたので、大赤字ですよ、民間も含めて。厚生病院も赤字です。当然我々もその分の負担はしますが、補填の負担はしますが、けどそういうものですよ。ですから、病院も含めて実は医師も、今日実はPCR検査、医師の先生方やってらっしゃいます。今日は、開業医の先生方と看護婦さんが今日やっています。今日でうち終わるはずですけど、厚生病院、白河病院、矢吹の会田病院、そして本当はもう一個くらい病院があればいいんですけど、本当はもう一個くらい病院があって、あと開業医が揃っているというふうになることが実は必要なことなので、私らがこれから開業医探し、探して言い方もおかしいんですけども、開業医の確保にもっと力を入れていく必要があるし、もう一つくらいの中規模な白河病院クラスの病院がもう一個くらいあればいいなと実は

思っています。これは行政の力ではいかんともしがたいのでありますけど、そういう病院がもう一個くらいあれば、医療推進としては第三次供給はこれは県立医大とか郡山とかに行けばいい。あるいは自治医科大に行けばいいので。あるいは、場合によっては実は那須塩原の菅間病院ってありますよね。あの院長先生は白河の出身ですよ。この間、お母さんが亡くなりましたけど。郭内ですからね。私は菅間病院も先生が来い来いというので人間ドックやってもらいましたが、立派な病院ですよ。ですから、ここから那須塩原まで距離でいったら大したことないですよ。あるいは、日赤だっただけですよ。そう考えたら広域に考えたら結構病院はあるわけですよ。ですから。私は那須北部との関係を今、重要視するというのは首都機能移転の問題必ず起きるといって併せて、広域的に病院連携するというふうになれば、なんでかんで白河にもし病院あった方がいいんですけど、いざという時に広域な連携を組めれば、那須塩原と菅間病院と白河とか、大田原の日赤病院と白河。そういう事が当たり前のようになれば、なんでかんで白河いなくなるとそれは済むかもしれないというふうになってくる時に、県境を超えて那須白河一帯でいくというのは、私は間違っていないと思います。むしろ、これからはその方向だと思います。必要なことが。福島県と考えたって、福島県の私らと相馬市どんな関係あります。私はこの振興局長してましたけど。全く関係ないですよ、ほとんど。むしろ、那須とか那須塩原とか大田原のほうが関係深いでしょう。この大田原市とは災害協定とか、文化協定結んできましたけど、近いほうがいいでしょう。文化協定でもなんでも。災害でもなんでも近いと一緒に被害受けちゃうこともありますけども、それは近いほうが便利ですよ。ですから、遠くの親戚よりも近くの他人なんていう表現ありますけど、行政も同じですよ、ある意味。隣人と関係を強くしておくこと。これ郡がどうであれ、県がどうであれ、そんな関係ないですよ。これから、そういう単位で物事を考えていく必要があると。私はずっとこのことを、西白河郡の首長さんにも東白川郡の町村長さんにも話しております。白河圏域全体で考えましょうねと。我々、何とか町、何とか村にみんな引っ張ってくるなんていうことはもういいから、圏域全体で考えていきましょうと。その中心は白河ですから、白河がいろんなことを提案をします。白河が交渉します。ですから皆さん、それに賛同すればどうか一緒にやっていきませんかということを常に言っております。そういう時代だと私は認識しておりますので、アフターコロナは地域の連携、那須塩原も那須町も含めた西白河このエリアで連携対応していくということが大きなアフターコロナにおける仕事だと思っております。それ以外にもいろんなことがありますけど、これきりがありませんから、あとはもう二つだけ話しておきます。ワクチン接種は今のところ、今週の月曜日から高齢者が始まりました。そして、高齢者が打ち終わるのは大体8月の第1週にみんな打ち終わる予定です。そのファイザーからのワクチンが供給されてくれば、同時並行的に基礎疾患のある方が高齢

者の第2回目を最後のほうの組と基礎疾患ある方が同時並行的に入っていく、多分、ということであります。すべてが終わるのはいつかと聞かれると、それはファイザーのワクチンが十二分に入ってくることでないとはっきり言えませんが、多分年内には終了させたいと、できればですね。ということで今進めておりますので、ここはワクチンさえ来れば医師の体制も揃っています。医師の確保体制も全部揃ってます。看護師も揃えております。それから、我々市役所の事務職員もスタッフは揃えております。もう今週から始まりましたので、これから進んでいけば進んでいくほど円滑にワクチン接種は進んでいきます。ですから、これはワクチンの供給量次第であります。これは政府の力に任せるしかないので、私共はこのワクチン担当大臣の側近のある官僚が総務省から行ってるので、その官僚さんと電話とかメールでやりあって連絡していますが、その人は確かな情報なのでその人から今聞きながら対応しているというところなので、何とかこのワクチンを打てば流行は一応収まってくると思いますので、この間何とか少し窮屈な生活であります、ここ我慢していきたいと思います。そして、実は過剰に心配することないという、またマスコミの方いると怒られちゃいますけど、実は感染率からすると日本の人口からするとそんなにすごい数ではないんですよ、実は。死亡者からみたら、インフルエンザのほうが実は死亡者が多いですからね。感染率も死亡者も圧倒的に多いんですよ。ところが、このコロナは本人は発症しなくても誰かにうつすというそれがわからないから怖いということですよ。目に見えないから怖いという、そういう恐怖感が煽っているから非常に皆非常にナーバスになってますし、またテレビをひねると新聞でも情報のこれはパンデミックじゃないかと思ってますけども、常にトップニュースで扱っている。もちろん、当然必要なことは行うべきであります、過剰にあまりにもこれが過剰に出過ぎてるのではないかというふうには私は思うところがないわけでもない。あとは、このワクチンを早く用意をして接種すれば、もうこれは安心です。だって、イスラエルはもう3回目まで予約して、もう全部打ち終わって、マスク外して生活してますもんね、テレビなんか見ると。ですから、ワクチン接種すれば非常に感染率は格段に落ちてきますので、マスク外してもほとんど心配ないと言われておりますので、とにかく早く私どもの役割としてはワクチンを打つ体制は取ってますから、早く政府からワクチンを供給してもらうこと。これに全力を挙げていきたいと思っています。それからもう一つ、実は今これから考えて今、基本設計に入るところなんですけど、旧市民会館の跡地に、今は駐車場になってますが、あそこに複合施設を作るとこういう計画を持っております。一つには、白河市役所の中には防災センターというのが実はないんですね。いざ台風が来た、地震が来た時に国とか県とか他市町村と直接テレビ電話とかテレワークのリモート会議をするような、そういう場所が実はないんですね。あっても5~6人しか入れないんですね。ですから、これではもう話にならないということで、防災セ

ンターを作っていざ何時何があってもすぐに対応できるようなそういう施設を作ると。それから、もう一つは生涯学習センターというのがありますが、これはまだはつきりはしてませんが、よく中央公民館がもう古くなってきたので、中央公民館に変わるような施設が必要ではないのかと、こういう話がありますね。ですから、これは公民館というか、生涯学習機能というかそれぞれ取り方はあると思います。私は公民館というのは、これはちょっと公民館法という法律があって、戦後日本どこにも公民館というのはありましたよね。あれはアメリカのマッカーサーの占領政策の一環でもあるんですよ。日本の民主主義はマッカーサー元帥は何と仰ったかわかりますよね。日本は12歳の少年ぐらいの能力しかない。能力しかないというのは民主主義に対する理解度が少ない。こういうふうな馬鹿にした言葉を言いましたよね。日本人に民主主義を植え付ける必要があるということで、公の民を作る必要があると。そのために施設として公民館を作ろうじゃないかということで、日本各地に公民館を作りました。公民館法という法律もあったと思います。そういうことなんです。占領政策の一環として、日本に軍国主義的なものを作らせないために、民主主義とは何ぞやということをもっと根付かせる必要があると。幼い幼い日本人に民主主義の大事さを教えなきゃならないと、完全に上から目線の大人が子供に教えるようなものの言い方をして日本各地に公民館を作らせたというのが実は実態なんです。ですから、もう今はその時代じゃないと思いますよ。もちろん、公民館の機能はもちろん必要ですが、さらに広く生涯学習、やっぱり我々人間死ぬまで亡くなるまで向上心を持つべきだと。体を使って皆さんが集まるように、何ごとに関心を持ちながら生きていくということが必要なんです。長寿社会になった今だからこそ、だから生涯学習という言葉が使われる。ですから、生涯学習機能という言葉を使ってそこに入れるということ。それから今、子育てというのは非常に大事ですね。子育て、これ今日は取って触れませんでしたけど、もう女性が働くのは当たり前になっています。しかし、女性はまだまだ一方では子供を産んでくださいとも言いますよね。子供産んでください、共稼ぎになってもやっぱり家事はどうしても女性のほうに負担がかかる。すると、夫も奥さんも働いてますが、やっぱりどうしても負担がかかるのは女性なんです、これは。ですから、女性が仕事に集中ができるようにもっと自由な時間というか、少し自分のフリーな時間を作ってもらえるような、そういう条件整備が必要であろうというために子育てのためのいろんな施設。幼稚保育園の設備、あるいは預かり保育、延長時間、預かり保育を延長する、保育時間の延長する、幼稚園を延長する。あるいは、小学校の生徒が授業が終わった後、家に帰るまでの放課後児童クラブを充実させる。こういった事も全部子育て支援の一環ですが、更にもっと突っ込んだ政策が必要だろうということで、そこに子育てセンターといったものを作っていくと。こういったことで、あとまだ一部検討中のものもありますが、こういったものを備えたような複

合型の施設というものを作ってはどうかかと。役所も今、水道部ももうちょっと藤田さんの所の土地を借りてあそこに作ってますけど、水道部もそれから健康増進課も中田にあります、あれも市役所にワンストップで入れて、ここで全部行政機能が解決するような行政のワンストップ機能をここに入れると。本庁舎とここを繋げて、行政がワンストップで対応できる。また、防災機能もここでいっぺんに防災センターと市役所と各町内会長を結んで、いろんな所で取り決めを結んで対応していくと。こういうふうにして防災への拠点を作る。それから、様々な生涯学習を勉強すれば、あるいは楽しむ場としての生涯学習センターを作ると。こういったことで今、検討を進めております。各種団体に急ぎ詳しい事についてはきめ細かく丁寧に説明するように指示しておりますので、いろんな団体の方々にこちら出向いて行って説明をする予定でありますので、どうか皆さんこういうものがあつたらいいのじゃないのかと。あるいは、こういうふうなものを作ったらどうなんだろうかと、そういうことがあれば是非ご意見を賜りたいと思っております。まだ、基本設計の段階に入ったばかりですからまだまだ変更もきますので。そして、これから再度言いますが、何団体か極力皆さん方の前でもっと具体的な話を申し上げたいと思っております。そして、皆さん方のご賛同を頂戴して建築に移っていきたくて、こういうふうにして思っております。ちょっと時間も超過したようなので、そろそろ時間もいいところですので、この辺で終わりますが、いずれにしても冒頭お話をしましたように、今、ウィズコロナで本当に大変な思いをしているのは飲食店の方々、大変な思いをしております。それから、旅行関係者の方々です。こういった方々が極端に大変な思いをしております。ただ、ここが難しいところで東京なんかは午後8時までとかいう規制がかかりますが、非常事態宣言はいずれ東京にも発出されるでしょう。福島県は非常事態宣言は発出されませんので、できうれば少人数で十分に感染拡大をしないような措置を講じて、できうれば飲食店も使っていただかないと飲食店が全部軒並み倒れちゃったら町の中どうなっちゃいますかねということですよ。一旦倒れたものが立ち上がるというのは大変な事なんです、これは。ですから、今苦しい中ですけど、極力少人数でもここは細々ながらでも、何とかここを耐えていくと。そして、ワクチン接種が終わったら、おそらく安心して元の生活までいくかどうかは別として、今よりも遥かに制御されない生活を送ることができるはずです。その間何とか持ちこたえてもらえるように私はもうこれは願うのみです。とにかく、白河の店が1件でも2件でも店を閉めないように、何とか願いたいと思っております。その間、我々もできることはいろんなことで応援していきたいというふうにして思っております。今は我慢のしどころだし、日本も地域も新しい未来への大変な時にこそ希望の扉というのは必ず開かれているはずでございますから。私は決して悲観してません。むしろ、今までいくら言ってもできなかった地方分散がですね。いくら地方が権限を地方に寄せ。もっと地方に工業を

再配置してくれということも国に言っても結局はできなかったですよ。これが皮肉にもコロナというこの疫病をもって、一ぺんにその門戸が大きく開かれようとしているということです。ですから、これが私はチャンスであると。ただ、チャンスは待っていればいいものではない。どこの自治体も準備を進めています。ただ、福島県は相対的に恵まれてます、東北地方でも。関東北部と言っても過言でないと思っておりますので、そういうアドバンテージを生かしながら我々の魅力ある白河。沢山白河魅力あると言っています。それは多くの方が皆さん仰ってますから。これは間違いなく自信を持ってください。県から東京から来た県庁の部長連中、会長連中、今度県から建設部長が参りましたが、彼も言ってますよ。彼は会津の出身ですけど、素晴らしい町ですね。歴史、文化、産業を含めて、まだ今日で2週間3週間ですけど絶賛しました。県庁から見ると白河市と自分が住んで町歩きして知った白河とはイメージが全く違うと。このことなんです。だから、我々は大いに自信を持っていいと思います。自信を持って表に発信をしていくということ。そして、同時に良い意味での地域間競争。競争って必ずしも悪いわけじゃなくて、良い意味での地域間競争をどんどんやったらいいと思います。私は行政にも競争原理が働いていいと思います。そういった意味で、過度な競争は問題ありますけど、適度な競争はあってしかるべきだと思いますので、この適度な競争原理を取り入れながら白河と栃木県北部と、できればですね、そういう所と一帯となって未来への扉を開いていくという時代がまさにもう迫ってきている。すぐそこに来ているように私は思っていますので、それに向かって進んでいく、その準備を今からしていく。このウィズコロナの中だからこそ、それができるんじゃないのかと、じっくり考えて。そして、このコロナの蔓延が収まったら、一気に呵成にそれを政策に打って出していくということですね。大きく伸びるためには、屈伸してほんと立ち上がる。その屈伸、今深くこう屈めながら力を蓄えながら、そしてどんと伸び上がっていく、飛び上がっていくという時期なのではないかと、私はそういうふうにして思っておりますので、自信を持ちながら我が白河の町を、そして県南地域を我々がけん引していくと。引っ張っていくということ、皆さん方白河西ロータリークラブの会員の方々に是非ともお願いしたいのは、我々と一緒になって希望を持って、そして未来の子供たちに何を残せるか、何を残していくべくかということ念頭に置いて、今の問題も大事と同時に将来に向けての問題も視野に入れつつ仕事をしていく生活をしていくということ、是非ともお願いしたいということのお願いを申し上げます。大変失礼を申しました。

